

カコちゃん
ショウくん かほくがたナルドレン

連載 河北潟の仲間たち

第20回 カとユスリカ



前回アブラコウモリが河北潟にやってくるお話をしましたが、このアブラコウモリに食べられるのが、今回のお題のカ(蚊)やユスリカです。

蚊については知らない人はいないと思いますが、ユスリカとカの違いについては、よくわからない方も多いでしょう。どちらもハエ目に属するカの仲間、姿はよく似ています。しかしカは人を射して吸血しますが、ユスリカは刺しません。そして蚊柱をつくるのは、カではなくユスリカです。

蚊柱はユスリカが大量発生して、交尾のために群飛する行動です。近くで蚊柱があると何となく人に対して群がってくるように感じますが、おそらくユスリカは、雌を獲得したいという思いで頭がいっぱいで、人のことなど構ってられない状態だと思います。

ユスリカの幼虫には、森の落ち葉の下層などにいる陸生のももありますが、ほとんどは水生です。餌は水底の泥の中や水中に漂う有機物やバクテリアです。富栄養化の進んだ河北潟は、ユスリカの好適な生息環境です。湖の中の栄養分を食べて成長し、羽化して水から出た後、蚊柱となってコウモリに食べられるのですから、栄養塩類の循環を促し、河北潟の水質浄化に役立つ生物ということが出来ます。

ユスリカの幼虫には白いものから黒っぽいもの、赤いものなどいろいろありますが、富栄養化が進んでヘドロが溜まったり貧酸素状態となった場所には、赤いユスリカの幼虫がいて赤虫と呼ばれます。これは、ヘモグロビンのようなものが含まれるため、体の中に酸素を蓄えられるようになっています。こうした赤いユスリカの幼虫を顕微鏡で観察すると、体から管のような突起が出ているものもいて、鰓の役目を果たしています。

ユスリカの幼虫は、ゆらゆらと体を揺るので揺蚊という名前です。一方、カの幼虫や蛹はボウフラと呼ばれます。宮沢賢治の「アンネリダ・タンツェーリン」という詩には、ボウフラが水中でうごめく様子を「8 γ e 6 α」(エイト・ガンマ・イー・スイックス・アルファ)と表現しています。ちょっとした水たまりで水中を上下に体をくねらせながら動いているのは、カの幼虫です。ユスリカの幼虫はスリムな体型ですが、ボウフラは頭でっかちです。また、ボウフラは蛹になってもよく動きます。その時、小さなオタマジャクシのように見えます。(文 高橋 久)